

---

# ある夏の出来事

重巡とね

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある夏の出来事

### 【Nコード】

N4920N

### 【作者名】

重巡とね

### 【あらすじ】

私、重巡とねが見たある夏の夢のことです。

**（前書き）**

私が体験したある夏の出来事です

ある日私はただ白い世界にいました。

何もないただ白い世界・・・

私は何かないかと歩いていました。

するとどこからともなく一つの爆音が聞こえてきました。

グオオオオオオン。

音のするほうに振り返ってみると。

空に一つ小さな黒い点が見えました。

その黒い点から小さな物が落ちてきました。

その点を眺めていると急にその黒い点が爆発しました。

私は思わずうつ・・・となつてかがみました。

その後強い爆風が来ました。

私は200メートルぐらい吹き飛ばされました。

吹き飛ばされた後空を見上げました。

白い空は黒と赤が混ざった色になっていました。

その後体全身に急激な痛みがきました。

私は自分の身体を見て驚愕しました。

体全身焼け爛れていたのです。

私はその場で悲鳴を上げました。

すると私の手を何者かがつかんできました。

私は振り返ってみると私と同年ぐらいの少女がいました。

その少女は私よりひどい焼け爛れ方をしていました。

その少女が私の手をつかんだまま何か語りかけて聞かした。

少女「・・・た・・・助け・・・て・・・」

私は悲鳴を上げてその場から逃げました。

逃げていく間に疲れて倒れこみました。

気がつくと私は自分の家のベッドの上で汗をびっしょりになって寝ていました。

私は日付を見るとすかさず自分に部屋にあるテレビをつけました。

8月6日そう・・・この日は広島に原爆が落とされた日でした。

原爆被害者を紹介しているコーナーを見ていました。

すると私の夢の中に出てきた少女が出てきました。

少女は勤労奉仕で家を解体作業中原爆にやられたらしい。

私はなぜか涙があふれてきました。

あの夢の中でなぜあの少女見捨てたのか。

それを今でも後悔しています。

終

（後書き）

私は今でもあの少女のことを時々思い浮かべます。

皆さん平和とは何か考えたことはありませんか？

原爆が投下され65年・・・被害にあった人は年々減りつつあります。

原爆の被害を後世に伝えられるのは我々若い世代です。

これを読んでいるみなさん。

我々で後世に65年前の悲惨な出来事を伝えていきましょう。

お読みくださりありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4920n/>

---

ある夏の出来事

2011年10月7日22時30分発行